

小児腎臓がんを患い、国立病院機構岡山医療センター（岡山市北区田益）で8月7日に手術を受けたラオス人女兒ナムソム・ヴォンヴィライちゃん(1)は術後約1ヵ月が経過。順調に回復し、医師団は早ければ秋ごろにも一時帰国を検討している。（井上光悦）

岡山医療センター 腎がん手術1ヵ月



順調に回復し、青山名誉院長に抱かれるナムソムちゃん

ラオス女兒回復順調

来日時は嘔吐^{おうと}で離乳食を受け付けなかったが、現在は食べることで体重も徐々に増加。母親のヨットさん(29)は「話し掛けると笑顔も見せるようになった。日本の皆さんのおかげ」と喜ぶ。

約4時間半かかった手術では、直径15㎝、約1・2^{キロ}あった腫瘍を全て摘出。転移や再発を防ぐため、放射線、抗がん剤治療を併用しているが、感染の兆候はなく、落ち着いているという。

秋にも一時帰国

青山興司名誉院長は「抗がん剤治療は約半年かかるが、経過が良好なら秋には一時帰国させたい。呼び掛けていた募金も目標額に達し、心から感謝している」と話している。

ナムソムちゃんは、国際医療団体ジャパンハート（東京）の橋渡^{はしわたり}で8月5日に来日。NPO法人中国四国小児外科医療支援機構（事務局・岡山医療センター）が支援している。